

平成29年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	特別支援教育の実践研究の推進 ～大学との連携を生かした取組を中核に～
事業実施代表者名	園長 二井 仁美
実施附属学校名	附属旭川幼稚園
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>【事業の概要】 本園が地域の先進園として特別支援教育の指導のあり方等を提案し、地域の幼児教育の質的向上に寄与する。そのために、附属学校室及び旭川校特別支援教育分野、地域の支援センターと強固に連携し、支援を必要とする幼児に適切な支援ができる体制を整備、支援の改善・充実を図る。また、これらの実践の発表・交流の場として「事例研修会」を開催する。</p> <p>【事業内容】</p> <p>◆大学との連携 旭川校の特別支援教育分野教員を「専門家チーム」として招聘。支援対象児の園生活の観察、発達検査の実施を依頼するとともに、アセスメントに基づく適切な支援の方法、保護者との連携について指導いただいた。また、「専門家チーム」の指導を日常的に受けながら本園に勤務できる大学院生を支援員として推薦いただいた。さらには、支援員同様に「専門家チーム」の指導を受ける学生（特別支援教育分野）をボランティアとしてクラスに配置。支援が必要な幼児への支援補助にあたった。</p> <p>保護者との面談を毎月実施。スクラムの活用や保護者への指導内容について、「専門家チーム」より助言をいただいている。</p> <p>◆支援員の配置 特別な支援を必要とする幼児に常に寄り添うことができる支援員を配置した。これにより、年間を通しての支援体制が整う。担任、副担任と支援員とのチームティーチングにより、対象児へのきめ細やかな支援が可能となった。</p> <p>年度当初は、支援員は5歳児クラスに配置の予定。しかし、今年度入園の幼児に他害行為（たたく、きつかく、物を投げつける等）が見られたことから、3歳児・4歳児クラスの配置とした。</p> <p>支援員を配置しない5歳児クラスには、その代替として前述の学生ボランティアを配置。対象児への支援補助にあたった。</p> <p>◆事例研修会の開催（平成29年8月1日） 上川管内国公立幼稚園・旭川市内私立幼稚園教諭、旭川市内保育所の保育士の方々に参加いただき、「特別支援事例研修会」を開催した。本園を含む3園より事例を発表し、その後のグループ協議においては、支援の方法や関係機関との連携について各園の実践を交流した。協議のまとめとして、萩原拓 氏（旭川校特別支援教育分野教授）より、指導・助言をいただいた。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について500字程度で記述)</p>	<p>◆大学との連携 支援員推薦，学生ボランティアの配置だけでなく，検査実施，アセスメント，さらには家庭の教育力向上，幼稚園と保護者の連携についての指導・助言に至るまで「専門家チーム」の専門的知見が大いに役立った。本事業「特別支援教育の実践研究の推進」の実施において，大学旭川校の「専門家チーム」と本園とが強固に連携できたことが大きな成果である。</p> <p>◆支援員の配置 支援対象児の思いを受け止めながら適切な支援を行うことにより，心の状態は安定する。懸念された他害行為の発生を抑えることができ，他幼児も安心・安定の園生活を送っている。</p> <p>◆事例研修会の開催 参加者の特別支援教育への関心高さ，学びへの意欲の高さがうかがえた。研修内容を改善しながら次年度以降も継続開催する。 また，本園の関係機関との連携，園内支援体制の整備等について今年度の事例をもとに提案する。</p> <p>◆園内特別支援教育コーディネーター 支援体制の確立，大学との連携には，園内特別支援教育コーディネーターの機能向上が不可欠である。専門的な知識の習得に努めなければならない。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>附属学校園には「大学との連携」「研究と教育の合体」が求められる。本事業の実施は，特別支援教育分野の「専門家チーム」との強固な連携で，附属学校園のあり方を明確にすることができた。これを，地域の幼児教育，特別支援教育に還元するとともに，成果を地域に発信する。 また，特別支援教育分野との連携だけでなく，さらに幅を広げ，他の領域についても大学との連携を推進する。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	